

一年の計は元旦にあり

校長 和田 慎也

令和8年が始まりました。冬休みはいかがお過ごでしたでしょうか。長い休みの間に、ご家族とのゆっくりした時間がとれた、また、普段できなかったことに取り組めた方もいるのではないでしょうか。「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。新しい年のはじまりに、しっかりと目標や計画を立てることで、その一年を充実したものにできる、という教えです。始業式で子供たちにも話しました。今年がんばりたいことや、できるようになりたいことなどを考えてほしいと思います。そして、昨年のできなかったことやくやしかったこと、かなしかったことなど忘れてしまいましょう。新しい年に、これからはじまるワクワクすることを考えてみると、毎日がもっと楽しくなります。

先月、南台の旧校舎に行ってきました。第二校舎の裏にあったさくらの木の伐採のことの相談でした。さくらは材木として、しいの木分教室で保管し新校舎で活用してもらおうと考えています。幹の部分を材木として活用するには1年ほどの乾燥が必要とのこと。何に加工するかは次代の校長に委ねますが（私は校内案内盤や教室表示のプレートなんかどうかなあと思っています）、47年間、中野の子供たちを見守ってくれたさくらが、新校舎でも子供たちを引き続き見守ってくれるといいなと思っています。ところで南台校舎は解体が進んでいます。プールは跡形もなく撤去され、第二校舎は骨組みだけに。本校舎のまわりにも足場が組まれ、校内は電気関係の撤去工事が進んでいました。3月までにぎやかな子供たちの声が響いていた南台校舎。なんだかちょっと切なくなりましたが、生まれ変わる中野の新校舎に会える日が待ち遠しくなりました。

さて昨年の4月から、さくら校舎としいの木分教室の学校生活が始まりました。この間、みなさまから学校評価アンケート等を通じてさまざまご意見・ご要望をいただきました。ありがとうございます。いただきましたご意見やご要望は、学校運営連絡協議会に報告するとともに、次年度の学校運営にいかしてまいります。次年度の教育計画は作成中ではありますが、現時点で計画している主な変更内容等は次のとおりです。

【さくら校舎】

- 小・中学部は、11月の土曜日に「ミニ学習発表会（仮称）」を計画しています。
- 中学部2年生のみ継続していた都立文京盲学校での体育の授業を、新宿NPO協働推進センターに変更します。これで中学部・高等部は全学年、新宿NPO協働推進センターの体育施設を借用していくことになります。都立文京盲学校の校長先生をはじめ、教職員のみなさま、本当にお世話になりました。
- 高等部は、年間授業時間超過の解消のため、週1回の「1便下校日」を設定します。また、部活動について再開を検討しています。

【しいの木分教室】

- 中学部と高等部の集団学習を充実させるため、それぞれの学部・学年の教科のねらいや目標などを維持したうえで、中学部と高等部の合同授業を増やしていく時間割の工夫をいたします。
- 大規模災害に備え、校舎の耐震性等の総合点検を実施します。



昨年は、物価の高騰や自然災害、クマが市街地に出没、外国では戦争があり、落ち着かないニュースが続きました。そのような中でも、子供たちが安心して学び、笑顔で過ごせる学校であるために、みなさまにご支援・ご協力をいただきました。感謝を申し上げるとともに当たり前の日常を過ごせることが幸せと感じます。

このような学校の日常で、子供たち一人ひとりの思いや努力を認め、挑戦を応援する一年にしていきたいと思います。最近は、「タイパ（タイムパフォーマンス）」などと言って、時間を効率的に使うライフスタイルや価値観がありますが、ちょっと立ち止まってゆっくり考えてみること、結果（成果）を求めるばかりでなく、その思考の過程を大切にしたいと思っています。今年もどうぞよろしくお願いいいたします。